

# 幼 児 の 教 育

昭 和 三 十 年 十 一 月

## 秋 晴

なんさいふ美しい空であらう。紺碧に澄み透つて、雲一つない。白い雲の影一つない。ひろがりの大きい美に於て、これ以上の美があらうか。明るさの美に於て、これ以上の美があらうか。清さの美に於て、これ以上の美があらうか。高さの美に於て……しかも仰ぎながらに吸ひつけられては、その高さを忘れる。

その秋晴を、わたしこいつしよに見上げてゐる子きもの目に、ふき氣がついて見るこ、大空そのまゝの美しさが映じてゐるではないか。英詩人ブラウニングは、野に低く咲くりんだうの花を歌つて、秋の碧空の一片が地に落ちたのだき言つた。あの美しい句のまゝが、その子きもの目にある。

わたしは、今、大空こ子きもの間に立つてゐる。

(倉橋惣三)